

第2章 「めざす子どもの姿」を実現するための重点

重点目標⑧ 教職員の資質・能力の向上

教育への情熱を持ち，豊かな人間性を備え，自己相互研鑽を積み，確かな教師力を持った教職員をめざします。



1 教職員研修の充実

◆ ねらい

教職員としての専門性や実践的指導力，幅広い社会性や柔軟な発想，対人関係のスキル等を養い，さらなる教師力の向上をめざします。

取組指標	現状値 (平成 23 年度)	目標値 (平成 27 年度)
教師力向上サポートブックの活用による研修の取組評価	3.0 (4点満点)	3.6 (4点満点)

◆ 現状と課題

- 教職員研修の現状（講座数・日数，参加者数）

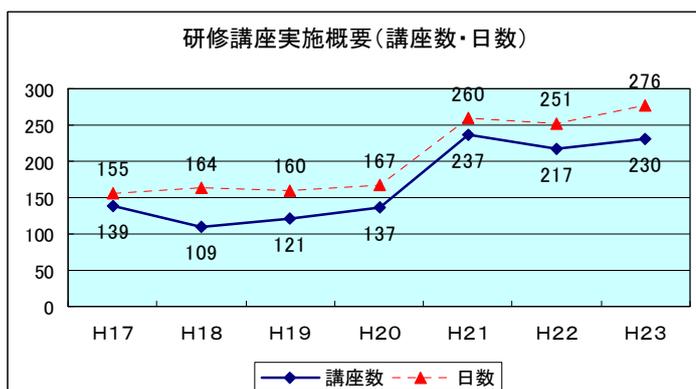


図1 【講座数・日数】

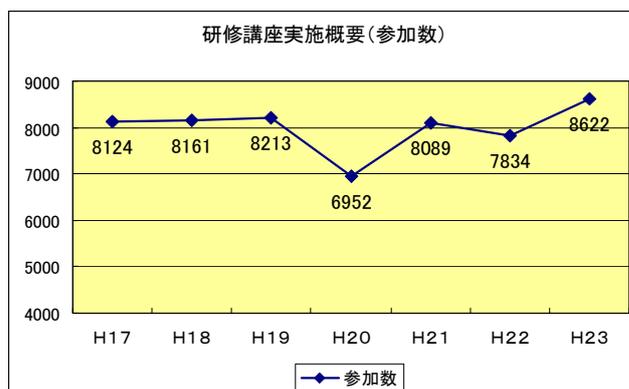


図2 【参加者数】

- ライフステージ別教職員研修

教職員研修講座では，個人年間研修計画に基づいた講座選択ができるように，教職経験年数（ライフステージ）に応じた講座の充実を図りました。

その結果，若手教員同士の交流研修（対象112人・必修講座4回選択講座1回）や，ミドルリーダー教員研修（対象65人・必修講座2回選択講座2回）など，ライフステージに応じた講座，自己の課題に見合った講座の受講が増えました。また，ワークショップ型の研修形態やグループ討議を取り入れることで，より参加者主体の研修となりました。



図3 若手教師のための実践交流研修

○ ICT授業研修の実施

ICT研修では、市内全小・中学校62校においてICTを活用した授業研修を行いました（図4）。また、各校の要望に応じて出前講座形式の研修会（6校6回）を実施しました。その結果、ICTコーディネーターを中心に各校でICTを活用した授業実践が行われるようになってきました。



図4 ICTを活用した授業研修

○ 課題

増加する若手教員に対する研修を、より一層進める必要があります。また、自己相互研鑽を効果的に推進するための「教師力向上研修」を今後もすすめていくことが大切です。

そして、研修に参加し教師が学んだことを、自校の授業実践に取り入れ、学級経営等に生かしたり、子どもたちの学びを深めていくことにつなげたりすることが求められます。

◆ 今後の方向性

○ 若手教員およびミドルリーダー教員研修等の充実

ライフステージに応じた教師力の向上を図るため、平成21年度から実施してきた「教師力向上サポートブック」「四日市市園・学校教職員 自己相互研鑽のために」の活用による研修の理念を踏襲し、自己相互研鑽を効果的に推進するための「教師力向上研修」をすすめます。

受講対象者や研修のねらいを明確にし、より実践的で能動的な教職員研修講座を実施することで、一人一人の「教師力向上」をはかります。

特に、教職経験2年未満の若手教員に対する「若手教員研修」及び「ミドルリーダー教員研修」をさらに充実させ、学校内におけるOJTを生かした教職員の資質向上を支援します。



図5 冊子「平成24年度 教師力向上研修」

○ 出前研修の推進

ICTを活用した授業づくりなど、学校の授業研究に対する助言や支援を行います。また、それぞれの学校現場のニーズに応じたより実践的なICT活用研修を、各学校に出かけて実施します。

また、初任者研修や若手教員研修対象者の授業を参観し、校内研修の進め方や内容等について相談やアドバイスを行います。

2 研究協議会活動の充実

◆ ねらい

四日市市・三重郡内の幼稚園、小・中学校の全教職員（校長・教頭・教諭等）は、勤務校園を超えて35の三沓教育研究協議会のいずれかに所属し、それぞれに研修テーマを設けて主体的な研修活動に取り組んでいます。また、研究協議会活動を通して保護者や地域の人々との連携も進めています。

この研究協議会活動の運営の母体となっているのが、「三沓教育研修運営委員会（略称 三沓運営）」です。三沓運営は、三沓管内教職員の研修活動における事業の運営や調整について支援しています。このような主体的な研修組織は全国的にみても大変特色あるものです。

◆ 主な取組状況

○ 研究協議会の活動

研究協議会は、年間7回（5，6，10，11，12，1，2月）の定例日を設定し、授業研究，研究発表，実践発表，実技研修等の研修会を実施しています。

今年度から、6月と11月定例日を小学校における「授業研究の日」と位置付けたことにより、各協議会における授業研究がより一層充実しました。

「学びの一体化」の取組を受け、幼稚園と小学校，小学校と中学校あるいは専門別，課題別・問題別研究協議会が連携した授業研究や実践発表も実施されています。

研究協議会名	協議会数	授業研究数
小学校教科別研究協議会	9	16
中学校教科別研究協議会	10	18
専門別研究協議会	5	3
課題別・問題別研究協議会	11	10



○ 教育講演会，教育研究大会

教育講演会，教育研究大会（課題別・問題別教育研究大会）では、保護者も交えた研修会を実施しました。各研究協議会の研修成果の発表の場であるだけでなく、保護者と教育に関して意見が交流できる場にもなりました。

開催日	講演会・研究大会名	場所	参加人数
8月17日（水）終日	教科別・専門別教育研究大会	24会場	1,273人
8月24日（水）午前	教育講演会	文化会館	566人
8月24日（水）午後	課題別・問題別教育研究大会	14会場	878人

○ 研究協議会共催研修会

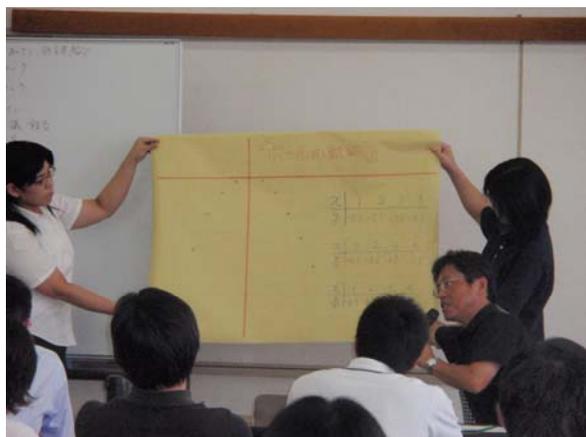
教育委員会と研究協議会が共催して、教職員の資質・能力の向上を図るための研修会を企画しました。教職員個々の専門分野における実技、実践力の向上を図るために研修参加型の実技研修会の充実を図りました。

- ・実施講座数 22講座、
- ・参加人数 1,726人



◆ 今後の方向性

- 各研究協議会では、教職員の資質・能力の向上をめざし、今日的な教育課題に対応した工夫のある研修会を実施します。また、授業研究を中心に据えた指導内容・指導方法等の研究、ICTを活用した授業改善等のより実践的な研修を推進していきます。
- 教職員が研究協議会定例日の研修会に参加しやすいような環境を整え、より一層の協議会活動の活性化を図ります。
- 研究協議会間の連携を図り、「学びの一体化」の主体的な取組を進めていきます。



3 校・園内研修の充実

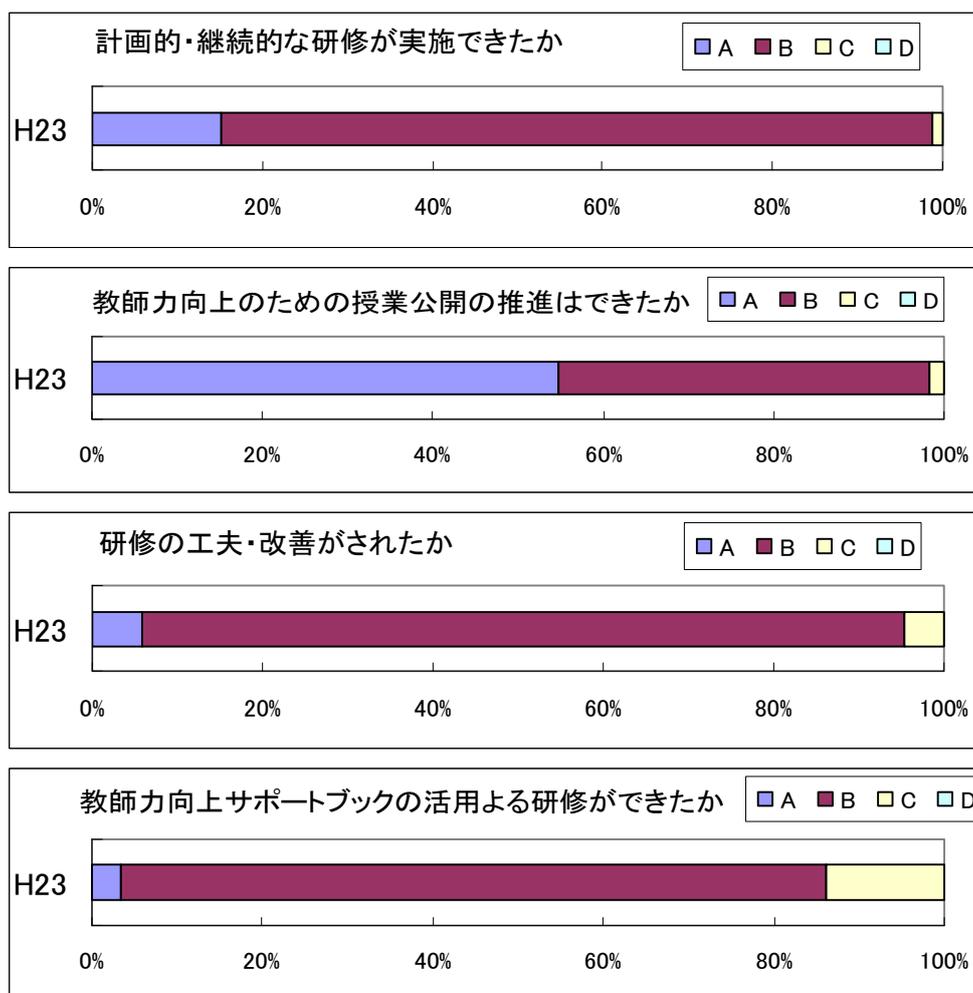
◆ **ねらい**

校・園内研修を充実させ幼保小中での指導体制の一体化を図ることで、教職員一人一人の力量を高め、子どもの成長と学びを系統立てて育てていきます。

取組指標	現状値（平成23年度）	目標値（平成27年度）
教職員全員が相互研鑽のため授業公開をした学校・園の割合	91.9%	100%

◆ **現状と課題**

- 研修に関する各学校・園の反省 〈平成23年度学校・園教育活動の評価から〉
〈幼稚園24園 小学校40校 中学校22校〉



「A」：十分 「B」：おおむね十分 「C」：やや不十分 「D」：不十分

重点⑧ 教職員の資質・能力の向上

- ・ 各学校・園の反省からは、「十分」「おおむね十分」とする回答がほぼ90%以上となっています。校区内研修・校内全体研修・学年研修など多様なレベルで、教職員全員が年1回以上授業公開等を行い、授業のねらいや内容、指導等について分析・検証する授業研究を行うことができています。
- ・ 教師力向上サポートブックを活用した自己分析と研修の推進が浸透してきていますが、「やや不十分」と回答している学校・園もみられます。自己分析をもとに個人目標を設定し、管理職の助言や同僚との相互研鑽によるOJTを推進し、得た知識や技能を実践で活用する場面を設定していく必要があります。

○ 三重大学との連携による教職員研修会の回数

	特別支援	研究授業 〔教科〕	道徳	生活指導	あそび 保健体育	学び	コミュニテ ィスクール	評価 学習指導	その他	合計
幼稚園	18	0	/	1	1	1	/	/	0	21
小学校	6	6	2	0	13	1	4	1	0	33
中学校	6	6	0	0	0	0	0	1	1	14
合計	30	12	2	1	14	2	4	2	1	68

- ・ 教職員の専門性を高め、指導力向上を図る目的から、三重大学教育学部との連携により、大学の教官を各校園に招いて研修の充実に努めています。各学校・園の課題の解決に向けて、専門的な立場からの適切な助言が有効に活用されています。

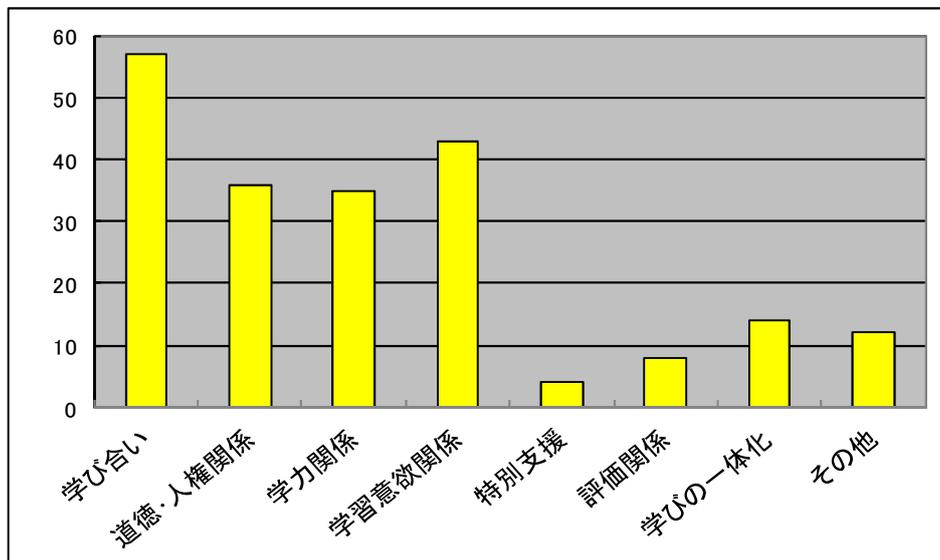


◆ 今後の方向性

- 各学校・園内での日常的な相互授業公開や実践交流の実施を進めます。また、学びの一体化の取組の意義の浸透を図るために、研修会や公開授業研究会を設定し、幼保小中が連携した授業改善の取組を進めます。
- 教育センター等の外部研修会への積極的参加を促すとともに、校内での共有化を進めます。
- 新学習指導要領の内容の定着を図っていきます。
- 教師力向上研修を一層推進し、教職員同士の協働を推進します。
- 三重大学との連携を今後も継続させていくとともに、コミュニティスクールなどの学校づくりに関する研修など、新たな分野でも連携が充実できるよう努めます。

◆ **主な取組状況**

○ 校内研修の主な内容 <平成23年度 各小中学校の研修主題の類型（のべ校数）>



学び合い…子どもたちが互いに 学び合う中で、コミュニケーション力を育成したり、仲間づくりなどを図ったりする研修
 学力関係…基礎基本の定着や、思考力・表現力などの育成を図る研修
 学習意欲関係…課題解決的な学習の研究やキャリア教育など、子どもたちの学習意欲を高める指導方法の工夫や教材の開発を図る研修
 その他…運動、家庭との連携、ICTの有効活用などの研修

・ 指導主事等が、各校から要請を受け、授業研究会や講演等への助言や指導のために訪問しています。要請以外でも、随時、学校を訪問し、指導や助言、相談に応じています。また、関係機関を訪問し、調整に努めています。

平成23年度指導主事訪問等回数

要請訪問(幼小中)	555
学校園訪問(幼小中)	711
関係機関訪問	271